公共施設配置パターン

用語の解説

整備パターンとは

略地図に公共施設を配置し、その 考え方を記述したもの。

公共施設配置パターンとは

整備パターンを具体化するため、 現在の地形に公共施設を配置し、 着色したもの。 ■公共施設配置パターンを考えた経緯

<平成16年12月>

大橋川改修の具体的内容で「法線」が公表される。

法線とは 堤防の肩の部分のことです

〈平成18年11月〉

大橋川周辺まちづくり検討委員会で「大橋川周辺まちづくり基本方針」を検討。

→ 提案



<平成19年5月 ~ >

同委員会で「まちづくりの具体像」を検討。



同委員会作業部会が「整備パターン」の素案を検討。

(2頁・3頁参照)

同委員会作業部会が

「公共施設配置パターン」の素案を作成。

(4頁~12頁参照)

- 今回お示しした公共施設配置パターンは、公共施設の位置、幅、大きさなどの素案を提案するものです。
- 今後、地元の皆さんから意見を頂きながら「修正・見直し」を重ね、より良い計画としていきます。

整備パターン〈上流部〉

河川改修にあわせ港湾緑地や川岸の道路を配置換えして 新たなまちづくりをめざす案



上流〈基本案〉の考え方

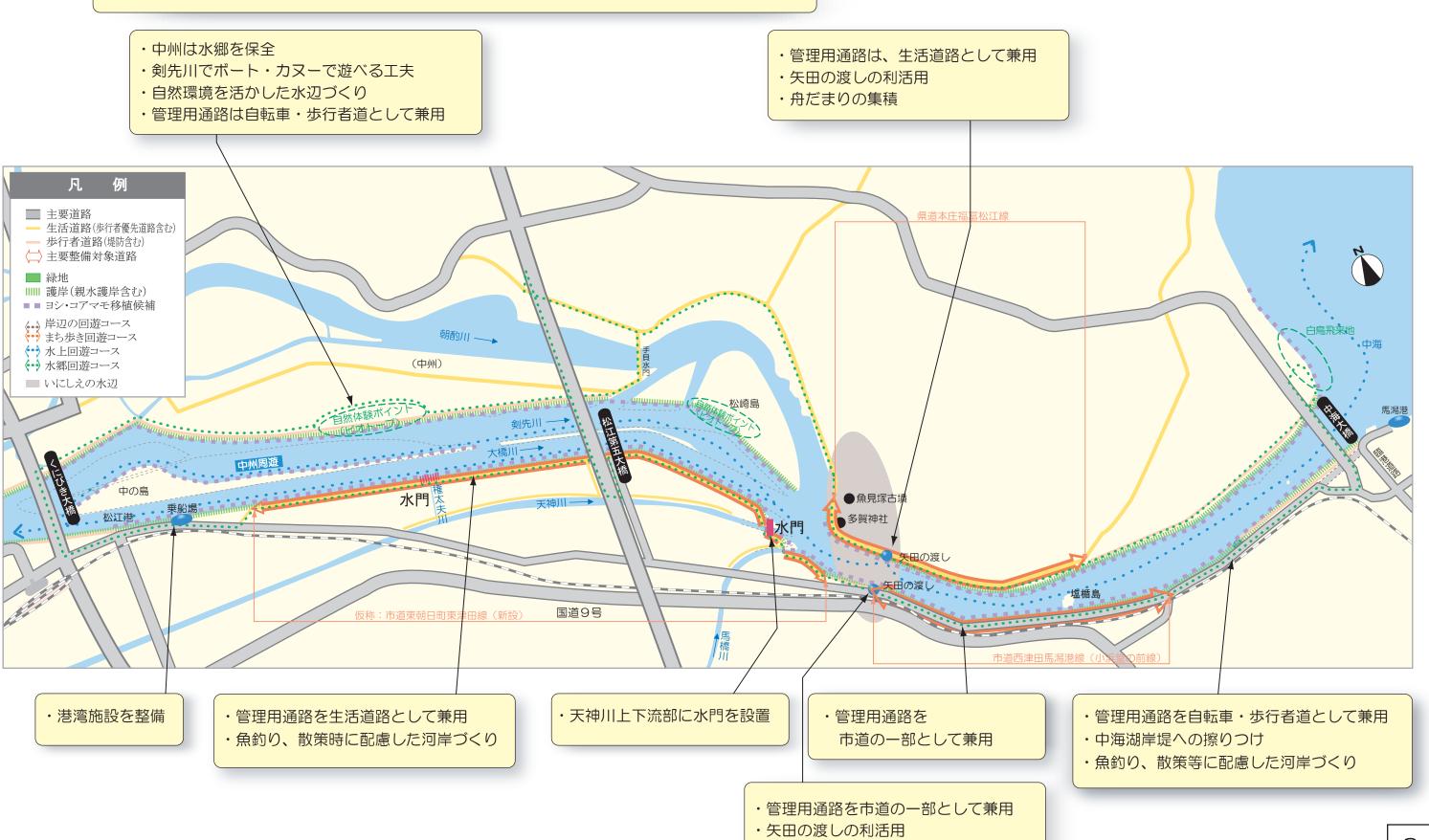
現在の護岸と道路を約20m内陸側に移動した案



中下流の考え方

整備パターン〈中下流部〉

河川改修にあわせ港湾施設や川岸の道路を整備して 生活道路以外にも、自転車・歩行者道、釣り場など水辺の利活用をめざす案



・舟だまりの集積

